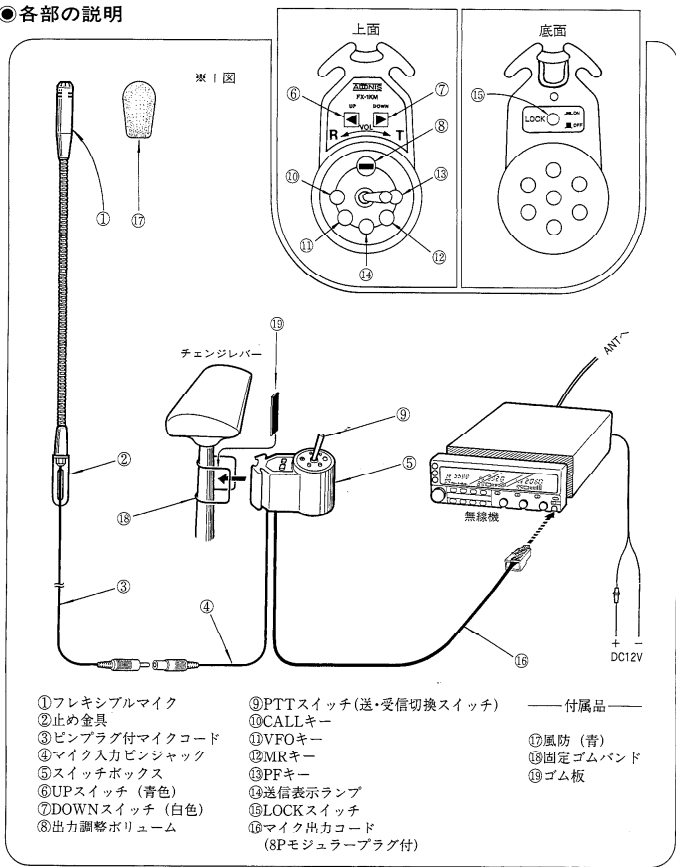


フレキシブル型モービルマイクロホン 取扱説明書

このたびは、エス・イー・シーのモービルマイクロホンFX-1KMをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

このFX-1KMは、無線機付属のリモコンマイクの機能の他に、警報音付無変調防止回路およびマイク出力調整機能を備えた、単一指向性高性能モービルマイクロホンです。ご使用に際しましては、本機の性能を十分に発揮させていただきこの説明書をよくお読みいただき、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は保証書と共用になりますので、お読みになった後も大切に保管してください。

●各部の説明

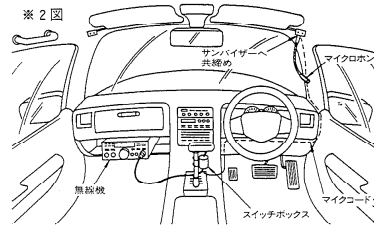


- | | | |
|---------------|----------------------|-----------|
| ①フレキシブルマイク | ⑨PTTスイッチ(送・受信切換スイッチ) | —— 付属品 —— |
| ②止め金具 | ⑩CALLキー | |
| ③ピンプラグ付マイクコード | ⑪VFOキー | ⑬風防(青) |
| ④マイク入力ピンジャック | ⑫MRキー | ⑭固定ゴムバンド |
| ⑤スイッチボックス | ⑬PPキー | ⑮ゴム板 |
| ⑥UPスイッチ(青色) | ⑭送信表示ランプ | |
| ⑦DOWNスイッチ(白色) | ⑮LOCKスイッチ | |
| ⑧出力調整ボリューム | ⑯マイク出力コード | |
| | (8Pモジュラープラグ付) | |

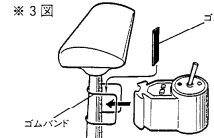
●取付方法及び接続方法

- フレキシブルマイク①の止め金具②は、サンバイザーと共締めするか、適当な場所へ工夫して取付けてください。(風防⑬をフレキシブルマイク①に付けてご使用ください。)
- スイッチボックス⑤は、付属の固定ゴムバンド⑭でチェンジレバーに取付けてください。不安定な場合は、付属のゴム板⑮を狭み固定してください。(3図参照)
- スイッチボックス⑤から出ているマイク入力ピンジャック④に、ピンプラグ付マイクコード③を差し込んでください。
- マイク出力コード⑥を、ご使用の無線機に接続してください。

●取付例



●スイッチボックス⑤の取付方法(3図)

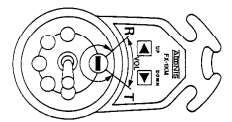


- 付属のゴムバンド⑭でチェンジレバーとスイッチボックスとを、しっかりととめてください。
- 取付けが不安定な場合、付属のゴム板⑮を間にに入れてください。

●ご使用方法及び通話の仕方

- PTTスイッチ⑨をT側に倒すと、送信表示ランプ⑭が点灯し送信状態に切替わったことを知らせます。また、R側に倒すと受信状態になり、送信表示ランプ⑭は消灯します。
- UPスイッチ⑥及びDOWNスイッチ⑦は、無線機付属のマイクロホンのUP・DOWNスイッチと同じ動作をします。(詳しくは、無線機の取扱説明書をお読みください。)
- CALLキー⑩、VFOキー⑪、MRキー⑫及びPFキー⑬は、無線機本体の前面パネルの各キーと同じ動作をします。(詳しくは、無線機の取扱説明書をお読みください。)
- LOCKスイッチ⑮をONにすると、PTTスイッチ⑨以外のマイクロホンのすべてのキーは、動作しなくなります。(無線機のキーはLOCKされません。)
- マイク部の先端から口元までの距離が10cm以内になるようにしてご使用ください。
- 出力レベルは、適正なレベルに調整されていますが、ご使用の無線機により多少異なりますので、変調が深すぎたり浅すぎたりする場合には、下記の要領にて調整してください。

出力調整ボリューム⑧を右(時計回り)に回すと出力は増加し、左(反時計回り)に回すと減少します。ローカル局にモニターしてもらいながら、4図に示してある回転範囲内をマイナスドライバーで静かに回して調整してください。(左右に約90度しか回りません。) 回し過ぎますと、破損する恐れがありますので十分注意してください。なお、図の位置ではほぼ中央になります。

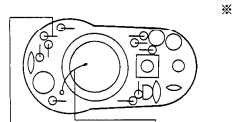


※4図

●無変調防止回路について

PTTスイッチ⑨が不用意に作動した場合、また通常の交信においても送信状態が約2~3分間続けばアラーム回路が作動し、警報音が約30秒間鳴った後自動的に受信状態になります。ただし、警報音は鳴り続け送信表示ランプ⑭は点灯したままです。なお、警報音が鳴りだしても続けて送信したい場合は、一旦PTTスイッチ⑨をR側に倒し、その後T側に戻せば警報音が止まり、再びタイマーのカウントを始めます。無変調防止回路解除の方法は5図を参照してください。

●無変調防止回路解除について



※5図

無変調防止回路解除の場合
2.0mA(赤色LED)の抵抗を切ってください。

アラーム回路解除の場合
定電流源に接続されているリード線を切ってください。

●回り込み対策について

ローパワーで送信すれば正常であるのに、ハイパワーで送信した場合変調が異常になったりバリバリという音が混入したり、その他の雑音(マイクに直接入るエンジン音ではありません)が増すことがあります。その場合アンテナと同軸ケーブルとの整合が悪く、定在波がマイクコードに乗ることが考えられます。従って、マイクコードの引き回し方を変えると良くなる場合があります。特に同軸ケーブルと平行にしないようにしてください。また、アンテナと送信機とのSWRをチェックしてみてください。

【ご注意とお願い】

- QSO中や出力レベルの調整を行なう時には、マイクロホンを叩いたりしないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温になる場所での使用及び放置は、変形・変質を招き本機に悪い影響を与えますので工夫して高温を避けるようにしてください。
- 本体内部は調整されていますので、不要な改造・調整はしないでください。
- 性能改善の為、予告なく仕様及びデザイン等を変更する場合があります。

【アフターサービスについて】

お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万 運搬中の事故などに伴い、ご不審な箇所、または破損などのトラブルがありましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店、又は弊社に保証書を添えてお申し付けくださいますようお願い申し上げます。